

令和6年度第2回大府市子ども・子育て会議（要点記録）

日 時：令和6年8月19日（月）午前10時00分～午後11時05分
場 所：大府市役所 全員協議会室

出席委員：渡辺顕一郎、中村佳世子、赤松 美穂、山内 裕美、阿部 真吾、関 元、
澤田まなみ、大橋 房代、杉原 直樹

欠席委員：早川和喜、加藤美穂子、秋津佐智恵

傍聴者：2名

事務局：健康未来部長、健康未来政策課長、健康未来政策課健康都市こども政策主事、
幼児教育保育課長、幼児教育保育課指導保育士、幼児教育保育課保育係長、こ
ども若者女性課長、こども若者女性課指導保育士、こども若者女性課子どもス
テーション所長、こども若者女性課こども支援係長、こども若者女性課ニュー
ジェネ&女性係長、健康増進課担当課長、健康増進課健康増進係主査、福祉部
福祉総合相談室長、学校教育課長

1. 会長あいさつ

2. 議題

(1) 大府市子ども計画仮称の策定について

※事務局より説明（説明者：健康未来政策課長）

〈質疑応答〉

委員

受験生のインフルエンザ予防接種の助成だけでなく、近年流行している新型コロナにつ
いて今後、追加でやる予定があるかを教えていただきたいです。

事務局

コロナワクチンに関して、現状はこの秋以降に65歳以上の方と、60歳以上の一部障害
のある方が定期接種の対象になっています。

今現在、受験生に新型コロナのワクチン補助を行うということは検討していません。

委員

受験などの際には、気を遣う部分があると思うため、ご検討いただければありがたいな
と思います。

会長

大府市の児童センターでは、ゲームなどを持ち込んで遊ぶことはできますか。

事務局

基本的には、持ち込んでゲーム機やスマホ等の使用は、できないこととなっています。

会長

今回の子ども計画の策定に当たって、若者と子どもたち当事者の意見も大事にする、というベースがあるならば、子どもたちの意見を拾いながら、児童館がどうあるべきか検討していただきたいと思っています。

事務局

石ヶ瀬児童老人福祉センターでは、大きい画面を使用したeスポーツができるようにしています。スマホやゲーム機などの高価なものはトラブルの元となるため、情報リテラシーも含めて検討していく必要があると思っています。

委員

放課後クラブを利用している保護者の方から「月額3万円ぐらいかかると聞いて、手厚くて感謝をしているが、少し割高な理由とかが分かれば教えてほしい」という意見を頂きました。

事務局

市設は月額1人5,000円で、民間クラブは、民間の事業者の方が料金の設定をしています。最も高いところで一人あたり月額1万9,900円、2人で3万4,500円という金額設定になっています。今ひとり親の場合、1万9,900円が1万4,900円に減額されているところもあります。それ以外については、月額1万5,000円等といった金額設定になっていましたので、1人だけで3万円というところはありません。

また、民間クラブはいずれも保育料におやつ代も含まれていますが、市役所の公設の放課後クラブは月額5,000円の中におやつ代は含まれていないため、おやつは各自の御家庭で負担していただくという違いがあります。

委員

若者たちは、何に困っているかが分からない状態で困っています。様々な具体的な網を広げたところでそこをすり抜けていくような子たちに対しての居場所や機能があると良いと感じます。

事務局

ライフステージを通した切れ目ない支援の中に、多様な遊びがあり、こうした基盤の中に場所を設定しています。また引き続き御意見頂ければと思います。

(2) 病児・病後児施設の整備について

※事務局より説明（説明者：保育係長）

〈質疑応答〉

会長

今回新たに新設・整備されるに至った経緯やいきさつ等があれば、補足をお願いします。

事務局

現在、大府市の病児保育施設として、早川耳鼻咽喉科クリニックで実施をしておりますが、令和4年度までは青空有床クリニックで病児保育施設を設けていましたが、令和4年度末で閉鎖となったため、新たな受皿が必要となり、今回整備に至りました。

委員

こういった病児保育施設があるのは非常にありがたいが、病児を預ける行為自体について、周りの目が気になるという意見が若い母親からありました。親族などの家で見ないのか、という暗黙の雰囲気を感じてしまい使いづらいという意見もありました。

事務局

以前よりは、子育てに対する雰囲気は変わってきており、こどもが発熱等で体調を崩した際に女性だけでなく、男性が休みをとることも普通になってきているかなと感じています。今後も男女問わず、休みやすい環境づくりに取り組んでいきます。

副会長

会社を休むことが難しい保護者で、無理に登園させようとする方がいます。会社を休みにくい保護者の方ももっと活用できるよう施策に組み込んでもらいたいです。

会長

休みやすい職場なら良いが、そうではない職場もたくさんあると思います。休暇をとってこどもの看病ができることが一番良いですが、1人抜けるだけで仕事が回らなくなる場合もあるため、休むこと自体に罪悪感を感じる方もいらっしゃいます。

委員

罪悪感で休めないということで困っているのではなく、せつかくこのような施設が用意されているのに、いざ使おうとすると偏見の目で見られるということが心苦しいとのことでした。

人の意識変容、啓蒙が、より大事ではないかと感じます。

事務局

今の子育てと祖父母世代のジェネレーションギャップが大きいと、現代の子育ての内容が記載されている手帳を本市が作成・配布し、啓発を行っています。引き続き、祖父母世代への啓発も力を入れて実施します。

委員

もともと病児・病後児保育施設が2施設あったところ、1施設になってまた2施設となりましたが、ニーズとしてはこの2施設で十分なのか、2施設では足りておらず、今後増やす必要はあるのか、現状を教えてください。

もう1点、2つの施設が、東新町と梶田町という近い距離にあるため、市の南部に住んでいる方々が、利用しづらいという課題があると思うが、今後についてどう考えているのか教えてください。

事務局

令和4年度末にあおぞら有床クリニックの病児・病後児保育施設が閉鎖したが、市内医療機関に依頼したところ、共和会が了承してくれました。

新型コロナが流行した際、働き方が変化し、在宅で仕事をしながらこどもの看病をする方も増え、施設の需要は少し減少しましたが、まだ要望は様々なところで頂戴している現状です。

市としては、急遽預けたいという方が、仕事を休まずに預けられる施設を確保する責務もあります。この4月からは、名古屋市との提携により、名古屋市の施設も使えるよう、施設の拡充を図っています。

市南部への施設の配置・立地を今後検討していく必要があると考えています。施設型はできる限り医療機関に併設することを目指し、立地等も含めて検討が必要と考えています。

委員

市南部だと東海市や東浦町も近いと思うが、近隣市町にそういった施設はありますか。

事務局

施設型となると近隣市町の施設数は多くないので、大府市民の利用は難しい状況です。

会長

感染症の流行によって、繁忙期・閑散期が左右されると思いますが、経営的な観点で課題はありますか。

事務局

令和5年度から運営費に係る補助が見直され、常駐する職員やスタッフの人件費がある程度まかなえる金額設定になっています。しかし、年間通じた利用人数が確保できないと利

用人数等による加算が取れない場合があります。

感染症が流行し、需要がピークとなった時には、普段の職員・スタッフで対応するのは厳しい状況が想定されるため、施設のさらなる増加等について引き続き検討してまいります。

会長

保育士が足りず待機児童が出てしまう自治体が増えています。保育養成校も入学生が減ってきているが、大府市の保育士不足の現状を教えてください。保育士を目指している学生等が、大府に定着する支援が必要になってくると思います。今後、計画策定の際にご検討ください。

事務局

若い世代は、結婚・出産だけでなく、他の理由でも保育士をやめてしまう現状があります。待遇面だけでなく、保育が楽しい、仕事を続けたいと思える保育士を育てることなど、保育士確保にはたくさんの課題があると考えております。

事務局

大府市内に私立園が増加したことや国からの給付費において、近隣市と地域手当の差などによって、保育士確保にかなり苦労している状況です。待遇面等で少しでもその差を埋められるような補助制度を事務局で検討しており、予算化していきたいと考えております。

4. 閉会あいさつ（健康未来部長）

以上